



変わる時代の確かな視点

News Release

2020・2021 年度特別調査 「第7回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、昨年末に全国の20～74歳の男女2,543名に対して、新型コロナウイルスのワクチンの追加(三回目)接種の意向やワクチン接種証明書等の利用経験、感染状況が改善した時期に再開したこと、GoTo トラベル利用意向、そして、継続的に変化を捉えているコロナ禍における行動変容や不安感について調査致しました。

オミクロン株による爆発的な感染拡大を受け、ワクチンの三回目接種が前倒しで進められています。年末の調査実施時点では、三回目接種に対して様子見層と積極層が多くを占め(それぞれ4割台)、消極層が1割という結果でした。また、感染状況が改善された時期に再開したことは、外食など感染拡大時にはリスクが高く、制約の多い行動が上位にあがりましたが、特に再開したことはないとの声も目立ちました。また、コロナ禍2年を経たことで、巣ごもり需要による買い物手段のデジタルシフト(店舗→ネットショッピング)や内食シフト(外食→デリバリー・テイクアウト)などの変化は1年前と比べて落ち着いた状況が見られました。一方、友人との距離の広がりや新たな出会いが減ることなど人間関係の不安が強まった状況は続いており、少子化の更なる進行も懸念されています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後も変化を追跡するために継続して調査を実施する予定です。

<調査結果のポイント>

- ✓ ワクチンの三回目接種は様子見層が44.9%、積極層が44.1%、消極層が11.0%
- ✓ 接種証明書等は9割が利用していないが、利用者では国内旅行(41.7%)や飲食店(26.5%)の利用が多い
- ✓ 感染状況が改善した時期に再開したことで最も多いのは外食(32.5%)、一方、特にない(38.0%)も多い
- ✓ GoTo トラベル再開時の利用積極層は31.5%、一方、利用するつもりはない(38.8%)も多い
- ✓ コロナ禍で増えていたネットショッピングやキャッシュレス決済、食のデリバリーサービスなどの利用の伸びは鈍化
- ✓ 就業者の一部で働き方のデジタルシフトが進行する一方、約6割はテレワークをしておらず、温度差が存在
- ✓ 友人との距離が広がることや新たな出会いが減ることなど、人間関係の不安は強まった状況が続いている
- ✓ 少子化の更なる進行について、そう思うが45.4%を占め、2020年12月以降で高水準を維持

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ
ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上
pr_corona@nii-research.co.jp
Tel.03-3512-1800
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nii-research.co.jp



RESEARCH

株式会社ニッセイ基礎研究所 102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 | Tel.03-3512-1800 [代表] | Fax.03-5211-1058 | www.nii-research.co.jp